シリーズ4年上第2回・くわしい解説

目　次

すぐる学習会
http://www.suguru.jp

基本 $\boxed{1}$

(1)　$15 + \underbrace{4 \times 7}_{\text{かけ算が先}} = 15 + 28 = 43$

(2)　$\underbrace{37 - 8}_{\text{左が先}} + 2 = 29 + 2 = 31$

(3)　$84 \div \underbrace{(29 - 17)}_{\text{かっこが先}} = 84 \div 12 = 7$

(4)　$15 \times \underbrace{(4 + 11)}_{\text{かっこが先}} = 15 \times 15 = 225$

(5)　$6 \times (19 - \underbrace{16 \div 8}_{\text{わり算が先}}) = 6 \times \underbrace{(19 - 2)}_{\text{かっこが先}} = 6 \times 17 = 102$

(6)　$(16 + \underbrace{8 \times 13}_{\text{かけ算が先}}) \div 15 = \underbrace{(16 + 104)}_{\text{かっこが先}} \div 15 = 120 \div 15 = 8$

(7)　$\{31 - \underbrace{(26 - 15)}_{\text{かっこが先}}\} \div 4 = \underbrace{(31 - 11)}_{\text{かっこが先}} \div 4 = 20 \div 4 = 5$

(8)　$12 \times \{45 - \underbrace{(14 + 24)}_{\text{かっこが先}}\} = 12 \times \underbrace{(45 - 38)}_{\text{かっこが先}} = 12 \times 7 = 84$

(9) $$\begin{aligned}\{12-\underbrace{(13+15)}_{\text{かっこが先}}\div 7\}\times 3 &= (12-\underbrace{28\div 7}_{\text{わり算が先}})\times 3\\ &= \underbrace{(12-4)}_{\text{かっこが先}}\times 3\\ &= 8\times 3\\ &= 24\end{aligned}$$

(10) $$\begin{aligned}30-\{17-56\div\underbrace{(25-17)}_{\text{かっこが先}}\} &= 30-(17-\underbrace{56\div 8}_{\text{わり算が先}})\\ &= 30-\underbrace{(17-7)}_{\text{かっこが先}}\\ &= 30-10\\ &= 20\end{aligned}$$

基本 2

かんたんなサンプルを作って求めましょう。

(1)　2＋3＝5 という式の，2の部分を□にすると，□＋3＝5。このときの□は，5－3＝2。
この問題では，□＋12＝27 だから，□＝27－12＝15。

(2)　5－3＝2 という式の，5の部分を□にすると，□－3＝2。このときの□は，2＋3＝5。
この問題では，□－19＝15 だから，□＝15＋19＝34。

(3)　2×3＝6 という式の，2の部分を□にすると，□×3＝6。このときの□は，6÷3＝2。
この問題では，□×7＝56 だから，□＝56÷7＝8。
（本当は，7の段の九九を考えれば，□は8であることがすぐわかりますね。）

(4)　6÷3＝2 という式の，6の部分を□にすると，□÷3＝2。このときの□は，2×3＝6。
この問題では，□÷6＝12 だから，□＝12×6＝72。

(5)　2＋3＝5 という式の，3の部分を□にすると，2＋□＝5。このときの□は，5－2＝3。
この問題では，23＋□＝41 だから，□＝41－23＝18。

(6)　5－3＝2 という式の，3の部分を□にすると，5－□＝2。このときの□は，5－2＝3。
この問題では，38－□＝25 だから，□＝38－25＝13。

(7)　2×3＝6 という式の，3の部分を□にすると，2×□＝6。このときの□は，6÷2＝3。
この問題では，6×□＝78 だから，□＝78÷6＝13。

(8)　6÷3＝2 という式の，3の部分を□にすると，6÷□＝2。このときの□は，6÷2＝3。
この問題では，72÷□＝18 だから，□＝72÷18＝4。

(9)　3×□－5＝16

かけ算がひき算よりも先なので，かけ算のところを，大きな$\boxed{}$でかこみましょう。

$\boxed{3\times\square}-5=16$

$\boxed{}-5=16$　という式になりました。

かんたんな例として，

$\boxed{\;5\;}-2=3$　ならば，$\boxed{}$ は，3＋2＝5　のように求められます。

$\boxed{}-5=16$　ならば，$\boxed{}$ は，16＋5＝21　になります。

よって，$\boxed{3\times\square}$ のところが，21になることがわかりました。

つまり，3×□＝21　です。

3の段の九九を考えて，□は7になります。

(10)　（13－□）×4＝28

かっこが先なので，かっこのところを，大きな$\boxed{}$でかこみましょう。

$\boxed{(13-\square)}\times4=28$

$\boxed{}\times4=28$　という式になりました。

4の段の九九を考えて，$\boxed{}$ は7になります。

よって，$\boxed{(13-\square)}$ のところが，7になることがわかりました。

つまり，13－□＝7　です。

かんたんな例として，$5-\boxed{2}=3$　ならば，$\boxed{}$ は，5－3という計算をして，2になります。

同じようにして，$13-\boxed{}=7$　ならば，$\boxed{}$ は，13－7という計算をして，6になります。

基本 $\boxed{3}$

25から，$\boxed{\text{ある数と3の和の2倍}}$ をひいたところ，答えが9になりました。

つまり，25 － $\boxed{\text{ある数と3の和の2倍}}$ ＝ 9 です。

よって，$\boxed{\text{ある数と3の和の2倍}}$ ＝25－9＝16 です。

$\boxed{\text{ある数と3の和}}$ の2倍＝16 ですから，

$\boxed{\text{ある数と3の和}}$ ＝16÷2＝8 です。

「和」というのは，たし算の答えのことですから，ある数と3をたすと，8になります。

よってある数は，8－3＝5 になります。

基本 $\boxed{4}$

(1)　たとえば，2×3×5 は 30 で，5×3×2 も 30 です。
このように，かけ算は，どの順に計算しても答えは同じです。

19×4×25 の場合，まず順番を変えて 25×4×19 にします。
25×4＝100 ですから，100×19 を計算すればよいことになり，19に0を2つつけて，1900が答えになります。

(2)　99×7 を，逆にして 7×99 にしても，答えは同じです。
7×99 は，たとえば「7円のものを99個買ったら，代金はいくらになりますか」という問題と同じです。
99個買うのははんぱなので，100個買って1個あとでもどすことにします。
つまり，7×99 は，7×100 を計算してから，7×1をあとで引けばよいことになります。
7×100＝700，7×1＝7 ですから，答えは 700－7＝693 です。

(3)　かけ算を逆にしても答えは同じなので，73×41＋27×41 を，41×73＋41×27 としても，答えは同じです。

41×73 は，「1個41円の品物を73個買った」ということと同じです。
41×27 は「1個41円の品物を27個買った」としうことと同じです。
ですから，41×73＋41×27 は，「1個41円の品物をまず73個買い，次に27個買ったら，全部で何円になるか」ということになります。

結局，1個41円の品物を，73＋27＝100(個)買ったことになりますから，全部の代金は，41×100＝4100(円)になります。

(4)　かけ算を逆にしても答えは同じなので，49×112－12×49 を，49×112－49×12 としても，答えは同じです。

49×112 は，「1個49円の品物を112個買った」ということと同じです。
49×12 は，「1個49円の品物を12個買った」ということと同じです。
ですから，49×112－49×12 は，「1個49円の品物をまず112個買い，次に12個をもどしたら，金額は何円になるか」ということになります。

結局，1個49円の品物を，112個買って，12個もどしたので，112－12＝100個買ったことになり，答えは 49×100＝4900(円)になります。

基本 $\boxed{5}$

虫食い算はミスをしやすいです。答えを求めたあと，必ず確かめをしましょう。

(1)　7より5の方が小さいから，$\boxed{\text{イ}}$＋7では，くり上がりがあったはずです。
よって，$\boxed{\text{イ}}+7=15$ となりますから，$\boxed{\text{イ}}$ は $15-7=8$ です。

$$\begin{array}{rcccc} & & 4 & \boxed{\text{ア}} & \boxed{\text{イ}} \\ + & & \boxed{\text{ウ}} & 2 & 7 \\ \hline & 1 & 1 & 6 & 5 \end{array}$$

$\boxed{\text{ア}}$と2と，くり上がりの1をたして6になるのだから，$\boxed{\text{ア}}$ は3です。

$$\begin{array}{rcccc} & & 4 & \boxed{\text{ア}} & \boxed{8} \\ + & & \boxed{\text{ウ}} & 2_{1} & 7 \\ \hline & 1 & 1 & 6 & 5 \end{array}$$

4＋$\boxed{\text{ウ}}$が11になるので，$\boxed{\text{ウ}}$ は7です。

$$\begin{array}{rcccc} & & 4 & \boxed{3} & \boxed{8} \\ + & & \boxed{\text{ウ}} & 2_{1} & 7 \\ \hline & 1 & 1 & 6 & 5 \end{array}$$

よって，右図のようになります。

$$\begin{array}{rcccc} & & 4 & \boxed{3} & \boxed{8} \\ + & & \boxed{7} & 2_{1} & 7 \\ \hline & 1 & 1 & 6 & 5 \end{array}$$

答えは，$\boxed{\text{ア}}=3$，$\boxed{\text{イ}}=8$，$\boxed{\text{ウ}}=7$ です。

(2)　5より9の方が大きいから，5－$\boxed{\text{オ}}$ は，くり下がりがあったはずです。

$$\begin{array}{rccc} & 6 & \boxed{\text{エ}} & 5 \\ - & 1 & 7 & \boxed{\text{オ}} \\ \hline & \boxed{\text{カ}} & 0 & 9 \end{array}$$

$\boxed{\text{エ}}$から1かりてきて，15にして，15から$\boxed{\text{オ}}$を引くと9なのですから，$\boxed{\text{オ}}$は6です。

$$\begin{array}{rccc} & & 1 & \\ & 6 & \boxed{\text{エ}} & 5 \\ - & 1 & 7 & \boxed{\text{オ}} \\ \hline & \boxed{\text{カ}} & 0 & 9 \end{array}$$

$\boxed{\text{エ}}$は1をかしてあげて，7を引いたら0になったのですから，$\boxed{\text{エ}}$は8になります。

$$\begin{array}{rccc} & & 1 & \\ & 6 & \boxed{\text{エ}} & 5 \\ - & 1 & 7 & \boxed{6} \\ \hline & \boxed{\text{カ}} & 0 & 9 \end{array}$$

百の位は，$6-1$ ですから，$\boxed{\text{カ}}$は5になります。

$$\begin{array}{rccc} & & 1 & \\ & 6 & \boxed{8} & 5 \\ - & 1 & 7 & \boxed{6} \\ \hline & \boxed{\text{カ}} & 0 & 9 \end{array}$$

（次のページへ）

よって，右図のようになります。

$$\begin{array}{rccc} & & {}^{1} & \\ & 6 & \boxed{8} & 5 \\ - & 1 & 7 & \boxed{6} \\ \hline & \boxed{5} & 0 & 9 \end{array}$$

答えは，$\boxed{\text{エ}}$＝8，$\boxed{\text{オ}}$＝6，$\boxed{\text{カ}}$＝5　です。

(3)　$\boxed{\text{ク}}$×6　の計算をすると，一の位が8になっています。
6の段の九九で，一の位が8になるのは，
6×3＝18　と，6×8＝48　です。
よって，$\boxed{\text{ク}}$　には，3か8が入ります。

$$\begin{array}{rcccc} & & \boxed{\text{キ}} & 5 & \boxed{\text{ク}} \\ \times & & & & 6 \\ \hline & 1 & \boxed{\text{ケ}} & 4 & 8 \end{array}$$

とりあえず，$\boxed{\text{ク}}$のところに3を入れてみます。
すると，6×3＝18　で，1がくり上がります。
十の位は，6×5＝30　で，1くり上がっていますから，31。
よって，十の位は1になるはずですが，いまは4になっているので，おかしいです。
よって，$\boxed{\text{ク}}$は3ではなく，8が入ることになります。

$$\begin{array}{rcccc} & & \boxed{\text{キ}} & 5 & \boxed{3} \\ \times & & & {}_{1} & 6 \\ \hline & 1 & \boxed{\text{ケ}} & 4 & 8 \end{array}$$

6×8＝48　で，こんどは4がくり上がっています。
十の位は，6×5＝30　で，4がくり上がっていますから，34。
十の位はちゃんと4になっているので，OKです。

$$\begin{array}{rcccc} & & \boxed{\text{キ}} & 5 & \boxed{8} \\ \times & & & {}_{4} & 6 \\ \hline & 1 & \boxed{\text{ケ}} & 4 & 8 \end{array}$$

百の位の計算では，3くり上がっていることを忘れないようにしましょう。
もし$\boxed{\text{キ}}$が1だったら，6×1＝6　で，3くり上がっているから9。
本当は10以上でなければならないので，おかしいです。
もし$\boxed{\text{キ}}$が2だったら，6×2＝12　で，3くり上がっているから15。
これはバッチリOKで，$\boxed{\text{ケ}}$は5になります。
もし$\boxed{\text{キ}}$が3だったら，6×3＝18で，3くり上がっているから21。
ところが千の位は2ではなく1になっているので，おかしいです。
$\boxed{\text{キ}}$が4以上にしてもおかしいので，$\boxed{\text{キ}}$は2で決まり，$\boxed{\text{ケ}}$は5で決まりです。

$$\begin{array}{rcccc} & & \boxed{\text{キ}} & 5 & \boxed{8} \\ \times & & {}_{3} & {}_{4} & 6 \\ \hline & 1 & \boxed{\text{ケ}} & 4 & 8 \end{array}$$

よって，右図のようになります。

$$\begin{array}{rcccc} & & \boxed{2} & 5 & \boxed{8} \\ \times & & {}_{3} & {}_{4} & 6 \\ \hline & 1 & \boxed{5} & 4 & 8 \end{array}$$

答えは，$\boxed{\text{キ}}$＝2，$\boxed{\text{ク}}$＝8，$\boxed{\text{ケ}}$＝5　です。

練習 $\boxed{1}$

(1) $\underbrace{(4-1)}_{\text{かっこが先}} \times \{14 - \underbrace{(1+3)}_{\text{かっこが先}} - 38 \div \underbrace{(4+15)}_{\text{かっこが先}}\}$

$= 3 \times (14 - 4 - \underbrace{38 \div 19}_{\text{わり算が先}})$

$= 3 \times (\underbrace{14 - 4}_{\text{かっこが先，左が先}} - 2)$

$= 3 \times \underbrace{(10 - 2)}_{\text{かっこが先}}$

$= 3 \times 8$

$= 24$

(2) 5×{　}＝75 なので，{　}＝75÷5＝15

よって，24－(□－7)＝15

24－(　)＝15 なので，(　)＝24－15＝9

よって，□－7＝9

□＝9＋7＝16

練習 $\boxed{2}$ (1)

もし，(　　)をつけなかったら，どういう順番で計算することになるかを考えます。

⑤ ① ③ ② ④
13－2×4＋28÷4÷3

＋ －よりも，× ÷の方を先に計算するので，
はじめの計算は，2×4のかけ算か，28÷4のわり算です。

他に「左から先に計算する」というきまりがあるので，はじめの計算は，2×4のかけ算です。

この計算の上には①という番号がついているので，確かに第一に計算することになっていますから，これはOKです。

次に，28÷4のわり算をすることになりますが，これも②という番号がついているので，OKです。

これで，最初に 2×4，次に 28÷4 を計算することがわかりましたから，そこを $\boxed{}$ でかこっておきます。

⑤ ① ③ ② ④
13－$\boxed{2×4}$＋$\boxed{28÷4}$÷3

次に計算するところは，「× ÷が先」というきまりがありますから，④のわり算になってしまいます。

ところが，④のわり算よりも，③のたし算を先に計算できるようにしなければならないので，右の式のように(　　)をつけなければなりません。

⑤ ① ③ ② ④
13－($\boxed{2×4}$＋$\boxed{28÷4}$)÷3

このように(　　)をつけると，「かっこが先」なので③の計算が先になり，さらに⑤のひき算よりも④のわり算が先なので④，最後に⑤の計算になり，ちゃんと番号順に計算ができるようになりました。

練習 $\boxed{2}$ (2)

このような問題では，□の中に＋ − × ÷をいろいろ入れてみて，10になったらラッキー，という方法もありますが，運が悪いとなかなか当たりません。なるべく楽に答えを求める方法を考えてみましょう。

$5\,\boxed{}\,4\,\boxed{}\,3\,\boxed{}\,2\,\boxed{}\,1 = 10$

まず，÷の記号をどこに入れるかを考えます。

＋ − ×とちがって，÷だけは，「わり切れない」ということがあるからです。

わり切れなければ答えが10にならないので，あまり変なところに÷を入れるわけにいかないのです。

たとえば右の式のように，はじめの□に÷を入れると，5÷4 の計算はわり切れないので，おかしいです。

$5\,\boxed{\div}\,4\,\boxed{}\,3\,\boxed{}\,2\,\boxed{}\,1 = 10$

右の式のように，4÷3 とすると，これもわり切れないので，おかしいです。

$5\,\boxed{}\,4\,\boxed{\div}\,3\,\boxed{}\,2\,\boxed{}\,1 = 10$

右の式のように，3÷2 とすると，これはOKなのです。3÷2 はわり切れないじゃないかと思うかも知れませんが，

$5\,\boxed{}\,4\,\boxed{}\,3\,\boxed{\div}\,2\,\boxed{}\,1 = 10$

÷の前の記号が×だったら，まず 4×3 をして12になり，次に12÷2をすることになるので，6となり，OKなのです。

$5\,\boxed{}\,4\,\boxed{\times}\,3\,\boxed{\div}\,2\,\boxed{}\,1 = 10$

あとは，＋と−を入れるだけです。

残っている□は2つで，＋・−と入れるか，または，−・＋と入れるかのどちらかですから，あとはやってみればいいですね。

$5\,\boxed{}\,\underbrace{4\,\boxed{\times}\,3\,\boxed{\div}\,2}_{6}\,\boxed{}\,1 = 10$

右の式のように入れると，5＋6＝11，11−1＝10 となり，ちゃんと答えが合います。

$5\,\boxed{+}\,\underbrace{4\,\boxed{\times}\,3\,\boxed{\div}\,2}_{6}\,\boxed{-}\,1 = 10$

よって答えは，右の式のようになります。

$5\,\boxed{+}\,4\,\boxed{\times}\,3\,\boxed{\div}\,2\,\boxed{-}\,1 = 10$

練習 $\boxed{2}$ (3)

3 × 3 ＋ 3 － 3 ÷ 3

計算の答えを大きくするためには，「かけ算」が大切です。

かけ算というのは，かける数やかけられる数が少し大きくなっただけでも，その答えはかなり大きくなります。

たとえば，5×6 を 5×7 にすると，30だったのが35 になり，5も大きくなります。

それにくらべてたし算は，5＋6 を 5＋7 にしても，11だったのが12になるだけで，1しか大きくなりません。

3 × 3 ＋ 3 － 3 ÷ 3
　↑

ところで，式の中に×の記号は，矢印のところにあります。

×の記号の左側は，3しかありませんからどうしようもありませんが，×の記号の右側は数字とか記号とかいろいろあるので，工夫のしがいがありそうですね。

3 ×(3 ＋ 3 － 3 ÷ 3

そこで，右の式のように (をつけます。
) のつけ方は3通りしかないので，3通り全部計算してしまいましょう。

3 ×(3 ＋ 3)－ 3 ÷ 3 ＝ 3 × 6 － 3 ÷ 3 ＝ 18 － 3 ÷ 3 ＝ 18 － 1 ＝ 17
3 ×(3 ＋ 3 － 3) ÷ 3 ＝ 3 × (6 － 3) ÷ 3 ＝ 3 × 3 ÷ 3 ＝ 9 ÷ 3 ＝ 3
3 ×(3 ＋ 3 － 3 ÷ 3) ＝ 3 × (3 ＋ 3 － 1) ＝ 3 × (6 － 1) ＝ 3 × 5＝ 15

よって，答えが最も大きくなるときの答えは，17になります。

練習 $\boxed{3}$ (1)

やりたかった計算	…	ある数に2をかけた答えを34からひく計算
まちがえた計算	…	34からある数をひいた答えに2をかけてしまった

まちがえた計算の答えが，40になってしまったのですから，

34からある数をひいた答えに2をかけると，40になる，

ということです。

$\boxed{\text{34からある数をひいた答え}}$ に2をかけると，40になる。

ということですから，$\boxed{\text{34からある数をひいた答え}}$ は，40÷2＝20 です。

$\boxed{\text{34からある数をひいた答え}}$ が20であることを式にすると，

34－□＝20　となります。

よって□は，34－20＝14 になります。

練習 $\boxed{3}$ (2)

やりたかった計算	…	ある数に2をかけた答えを34からひく計算
まちがえた計算	…	34からある数をひいた答えに2をかけてしまった

(1)によって，ある数は14であることがわかりました。

やりたかった計算は，「ある数に2をかけた答えを34からひく計算」です。その，ある数にあたるのが14であることがわかったのですから，

「14に2をかけた答えを34からひく計算」をすればよいのです。

14に2をかけると，14×2＝28 です。ですから，28を34からひく計算をすればよいことになるので，答えは 34－28＝6 になります。

練習 $\boxed{4}$ (1)

9×$\boxed{イ}$は，一の位が4になるのですが，9の段の九九により，
9×6＝54 のみです。

$$\begin{array}{r} & \boxed{ア}\boxed{イ} \\ \times & \boxed{ウ}\,9 \\ \hline & 4\,\boxed{エ}\,4 \\ & \boxed{オ}\boxed{カ}\,0 \\ \hline & \boxed{キ}\boxed{ク}\boxed{ケ}\,4 \end{array}$$

よって，$\boxed{イ}$は，6であることがわかります。

$$\begin{array}{r} & \boxed{ア}\boxed{6} \\ \times & \boxed{ウ}\,9 \\ \hline & 4\,\boxed{エ}\,4 \\ & \boxed{オ}\boxed{カ}\,0 \\ \hline & \boxed{キ}\boxed{ク}\boxed{ケ}\,4 \end{array}$$

ところで，$\boxed{ア}$6×9＝4$\boxed{エ}$4 となるのですが，
もし 36×9 ならば，計算すると324にしかならず，百の位が4にはならないのでダメです。
46×9 ならば，計算すると414になって，ちゃんと百の位が4になるのでOKです。
56×9 ならば，計算すると504になって，百の位がオーバーするのでダメです。

$$\begin{array}{r} & \boxed{ア}\boxed{6} \\ \times & \boxed{ウ}\,9 \\ \hline & 4\,\boxed{エ}\,4 \\ & \boxed{オ}\boxed{カ}\,0 \\ \hline & \boxed{キ}\boxed{ク}\boxed{ケ}\,4 \end{array}$$

よって，右図のようになることがわかりました。

$$\begin{array}{r} & \boxed{4}\boxed{6} \\ \times & \boxed{ウ}\,9 \\ \hline & 4\,\boxed{1}\,4 \\ & \boxed{オ}\boxed{カ}\,0 \\ \hline & \boxed{キ}\boxed{ク}\boxed{ケ}\,4 \end{array}$$

次に，46×$\boxed{ウ}$＝$\boxed{オ}\boxed{カ}\boxed{0}$ のところを見ます。
かけ算をして，一の位が0になるためには，
46×5＝230 しかありえません。

$$\begin{array}{r} & \boxed{4}\boxed{6} \\ \times & \boxed{ウ}\,9 \\ \hline & 4\,\boxed{1}\,4 \\ & \boxed{オ}\boxed{カ}\,0 \\ \hline & \boxed{キ}\boxed{ク}\boxed{ケ}\,4 \end{array}$$

よって右図のようになります。
答えは，$\boxed{ア}$＝4，$\boxed{イ}$＝6，$\boxed{ウ}$＝5，$\boxed{エ}$＝1，$\boxed{オ}$＝2，
$\boxed{カ}$＝3，$\boxed{キ}$＝2，$\boxed{ク}$＝7，$\boxed{ケ}$＝1 です。

$$\begin{array}{r} & \boxed{4}\boxed{6} \\ \times & \boxed{5}\,9 \\ \hline & 4\,\boxed{1}\,4 \\ & \boxed{2}\boxed{3}\,0 \\ \hline & \boxed{2}\boxed{7}\boxed{1}\,4 \end{array}$$

練習 $\boxed{4}$ (2)

わり算のひっ算の中には，「かけ算」，「ひき算」，「数をおろす」が入っています。
例をあげて説明しましょう。

右図のような，410÷7という 計算があったとします。

```
      5 8
   ┌─────
 7 ) 4 1 0
     3 5
    ─────
       6 0
       5 6
    ─────
         4
```

このひっ算の中には，5×7＝35 という かけ算と，

```
      5 8
   ┌─────
 7 ) 4 1 0
     3 5
    ─────
       6 0
       5 6
    ─────
         4
```

8×7＝56 という かけ算と，

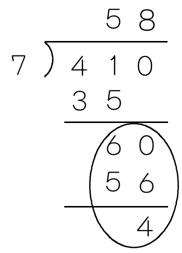
```
      5 8
   ┌─────
 7 ) 4 1 0
     3 5
    ─────
       6 0
       5 6
    ─────
         4
```

41－35＝6 という ひき算と，

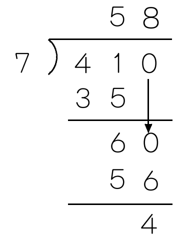
```
      5 8
   ┌─────
 7 ) 4 1 0
     3 5
    ─────
       6 0
       5 6
    ─────
         4
```

（次のページへ）

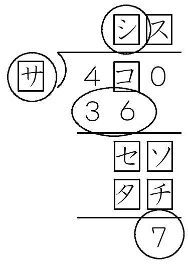
60－56＝4 という ひき算，



それに，「0をおろす」，ということをしています。

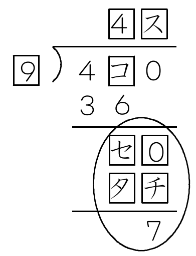


この問題も，右図の○でかこんだ部分は，かけ算ですから，
$\boxed{\text{サ}}$×$\boxed{\text{シ}}$＝36 です。
ところで，かけ算の九九で，36になるのは，4×9＝36か，
6×6＝36 か，9×4＝36 しかありません。
したがって，$\boxed{\text{サ}}$は4か6か9かのどれかです。
しかし，最後に7あまっていることから，$\boxed{\text{サ}}$ は7より大きい数のはずなので，9に決まります。



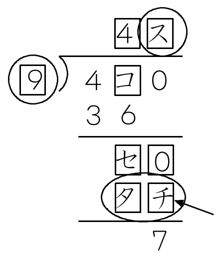
また，$\boxed{\text{サ}}$×$\boxed{\text{シ}}$＝36 なので，$\boxed{\text{シ}}$は4です。

右図の○でかこんだ部分は，ひき算なので，



（次のページへ）

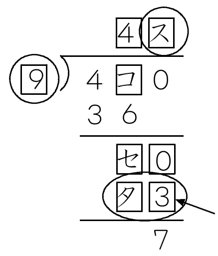
右図の矢印のチは，10－7＝3 になります。



ところで，右図の〇でかこんだ部分は，かけ算なので，
9×ス のかけ算をすると，一の位が3になります。

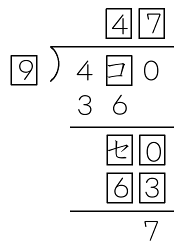
九の段の九九で，一の位が3になるのは，9×7＝63 だけです。

よって，スは7になり，タは6になります。

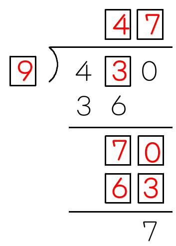


さらに，セ0－63＝7ですから，セ0＝7＋63＝70。よって セ＝7 です。

また，4コ－36＝セですから，36＋セ＝36＋7＝43。よって コ＝3 です。

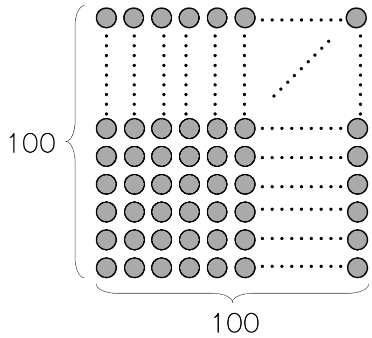


よって，右の図のようになります。
答えは，コ＝3，サ＝9，シ＝4，ス＝7，セ＝7，ソ＝0，タ＝6，チ＝3 です。



練習 $\boxed{5}$

右の図は，ご石がたて，横100列ずつならんでいます。



右の図のように，たてのご石を1個ふやし，横のご石を1個へらすと，アの部分のご石が99個ふえ，イの部分のご石が100個へりますから，全体では1個へることになります。

このことから，101×99の答えは100×100の答えよりも1小さくなることがわかります。

100×100＝10000ですから，101×99は，
10000－1＝9999 になります。